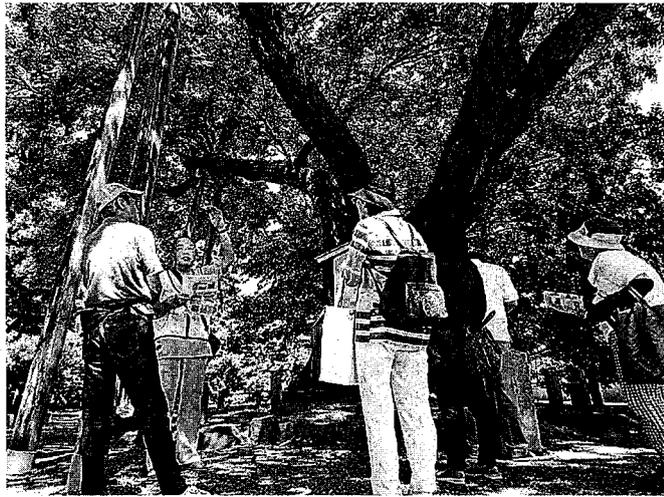


「京都通」が案内散策ツアー好評



大木の前で立ち止まり、幕末の激戦について語る都草メンバー（左から2人目）(京都市上京区・京都御苑)

京都検定合格者らのNPO開催



閑院宮邸跡に集合して、約2時間の散策ツアーが始まる

京都検定合格者らによるNPO法人「京都観光文化を考える会・都草」がボランティアとして、京都市上京区の京都御苑と京都御所の見どころを無料で案内する歴史散策ツアーが参加者

に好評だ。「京都通」ならではの豊富なエピソードで魅力を伝えている。これからは、心地よい風に吹かれて散策するには絶好の季節を迎える。歴史散策ツアーは毎回、明治維新まで歴代天皇の住まいだった宮内庁所管の京都御所と、公家邸宅跡に明治以降に国民公園として整備された京都御苑に分けて2時間程度のコースを巡る。参加者は天候などによって異なるが、十数人が参加する日が多い。正月も含めた1年を通じて催している。

「都草」メンバーが、京都御所南西の樹齢300年の巨大なムクノ木の前で立ち止まった。「この木は、『禁門の変』の激戦をきくと見ていたことになるでしょう」。長州藩と会津・薩摩藩の戦いで長州軍総督が討ち死にした歴史を説明した。通称「蛤御門」(新在家御門)の語源が、開かずの門が江戸期の大火で初めて開いたことから、「ハマガリが焼けて口を開くことに例えたのでしよう」とのエピソードを添える。

御所内では、紫宸殿や清凉殿といった一般観覧者が集まる場所以外にも足を止める。都草メンバーは、案内者が控える「諸大夫の間」の三部屋が、豊の縁の紋様や色がそれぞれ異なること

とを説明。「身分の違いによって控える部屋が分かれ、入室の作法も異なっていた」と皇室の厳粛な儀式に触れた。「都草」によると、基本的な案内事項は共通しているが、その日の担当者によって、語り口や追加のエピソードは異なるという。カラー刷りで御苑の見どころ15カ所を写真とともにわかりやすく解説したマップを法人が独自に作成。参加者に無料で配布している。

毎週日曜午前10時、環境省京都御苑事務所がある閑院宮邸跡前を出発する。当日参加可(10人以上の場合は要事前連絡)。問い合わせはNPO法人「京都観光文化を考える会・都草」075(451)8146。(秋元太一)

京都御苑と御所で

エピソード豊富に